

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を理解し、理念に基づいたサービスが提供出来るよう実践中であるが、現在分かり易い、覚えやすい理念への変更を考えている。	法人の理念とそれに連鎖したホーム独自の理念が作られており、利用開始時には本人や家族に説明している。月1回の職員会議で周知徹底を図っているが、現在、ホームの理念の変更について職員会議で検討している。職員の言動が理念にそぐわない時には施設長から直接注意を促したり職員会議で事例としてとり上げ注意を喚起している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事には健康状態を考慮して出来るだけ参加するよう心がけている。今年は年令的なことから参加出来る事が少なかった。しかし日常的な散歩や買い物に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、触れ合う機会をつくっている。	町会に加入し会費を納めている。地域との係わりについても意識をして取り組んでおり、ピアノとソプラノのコラボ、オカリナ、カラオケ、マジックなど多くのボランティアが来訪している。実習を受け入れている市内の高校のプラスバンドが毎年ホームの夏祭りで演奏している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの啓発に努めている。人材育成貢献として、実習生、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今後も積極的に取組み地域密着型のサービスとしての役割を果たして行きたい。平成23年12月運営推進会議で地域防災協定が締結され地域との係わりがより深くなった。	2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加し月末に開催されている。内容は現況報告や行事報告、苦情報告、次月の予定など事業所の透明性を図るためにも細部にわたり意見交換している。地域の出席メンバーも事業所からの要望に真剣に取り組んでいただいております地域防災協定の締結にも繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面で判断困難な時は相談に伺っている。認定更新の機会に市担当者へ利用者との暮らしぶりを具体的に伝え、連携を深めるよう心がけている。	介護認定の更新時には市の認定調査員が来訪し家族同席のもとでホームから情報提供している。市から派遣される介護相談員2名が毎月来訪しており利用者とは話をしている。地域密着型サービスに対する市召集の会議にも出席し集団指導等を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。	身体拘束に関する外部研修を受けた職員が研修報告を兼ね伝達研修をホーム内で実施している。職員も身体拘束をしないケアについて正しく理解をしており実践している。外出傾向の利用者については職員の見守りで対応している。万が一の場合に備え利用者の写真入り情報カードを作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。今回苦情研修に参加した職員を中心に伝達講習会を開き虐待についても話し合い、防止に努めている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに説明を行っているが、実際に必要とされる利用者が居ないため、理解はまだ無い。責任者は機会ある毎に研修等に参加して、知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化の看取りについて、当事業所の考え、医療体制について説明して同意を得ている。当事業所のケアに関する取組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに置いている。又家族等の意見を聞き、苦情を受けた時は、発生原因を探り課題を検討して改善に向けている。研修会に参加して、職員会議で報告会を聞き、意識を高めている。	ほぼ8割の利用者が自分の思いや意見を表すことが出来る。遠方の家族を除き1ヶ月に1回以上は家族の来訪がありその際に意見や要望を聞き入れている。苦情の内容についても運営推進会議で公開し透明性を図っている。敬老会を兼ねて家族会が開催されており、毎年課題を設け話し合いをしている。今年は終末期や看取りについて家族と話し合った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月一回行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり聞き出している。	全体職員会議が月1回開かれ、ユニット会議も同じく月1回開催されている。会議は双方向で職員の意思疎通の良い機会となっている。ユニット会議ではケアカンファレンスも行なわれ全体会議に続けて勉強会が開かれることもある。運営者である代表者と職員との面談も年1回行なわれ処遇等について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も月一回の責任者会議、職員会議に参加を心がけている。事業所の状態、職員からの要望を聞き改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修になるべく多くの職員が受講出来るようにしている。それらの研修報告は毎月の職員会議で、伝達講習をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と交流を持ち、バイオリンコンサート、研修会、夏祭り行事に案内を頂き参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家庭に訪問面談を行い、ご本人様、ご家族様の思いや生活状況を把握し、入居時には安心していただける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでは、どのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。相談する家族の立場に立って、話をしっかり聞きながら、受け止めながら関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前の事前相談などの機会には、必ずご本人にとってグループホームでの生活及びケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、人として先輩を敬い、生活の中で教えて頂く事の大切さ、またご本人様は教えることで生活を楽しみ、ご自分を再確認出来るよう、何事も双方向に向い声掛けを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じように思っている事をご家族に伝え、此処での生活をより良いものにするよう、話しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番は家族と共に過ごせる時間を作って頂くために外泊のセッティングや、友人知人が気軽に訪れて頂けるように心がけている。又馴染みの場所などは、外出の折にねなるべく訪れるようにしている。	馴染みの人との関係を継続できるように職員が支援している。利用前からのカラオケ仲間や仕事仲間の来訪を受ける利用者がある。家族の同伴が難しいお墓参りなどに職員が付き添うこともある。ほぼ三分の一の利用者がお盆や正月に自宅などへ外泊している。遠方にいる家族とともに馴染みの温泉ホテルに2~3泊する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に助け合い、喜び悲しみを分かち合えるような声掛けや、たまには利用者間に入り、繋ぎの役目をしている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、様子を聞いたり、ご家族の方の話を聞いて、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関りの中で話しを聞いたり、又あまり話たがらない利用者様には、ご家族に話しを聞いて把握しようと努めている。	ほぼ8割の利用者が自分の希望等を表すことが出来る。風呂の入浴時間帯、シャワー浴などの選択を本人にしている。発語が難しい利用者については表情や仕草で把握している。職員は利用者一人ひとりに合わせ時間をかけて丁寧に接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中でご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。又、入所後も日々の話の中からヒントを得られるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握している。生活を共にするという中で心身状態や、出来る事できないことを察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス、アセスメントをへて、ケアプランの作成、変更を行っている。3ヶ月に一度ご家族様には密に連絡し、意見を聞き参考にしている。	職員が利用者1~2名を担当しており利用者の情報をユニット会議や午後の記録の時間にケアマネジャーや施設長に伝えている。毎日記録している「健康管理&ケアプラン実施記録表」で実施状況や計画に対しての進捗状況を確認している。3ヶ月に一度見直しをかけており急変した時には臨機応変に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のミーティングの中で、記録、情報の共有を行い、細やかな修正を行っている。又出社時には記録を読み情報の共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援等の対応を行っている。2F、3Fの職員がその時々によって協力し合いご利用者に対応している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達による、踊り、マジックショー、カラオケコンサート等に来て頂き、日々職員の足りない部分を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、月一回の往診をお願いしております。体調不良の時は、訪問看護に相談後、かかりつけ医に受診している。その後、家族に連絡を取っている。	半数以上の利用者がホーム近くの内科医をかかりつけ医としている。その医師により月1回訪問診療が行なわれている。緊急時には往診もしていただけるようになっている。週1回訪問看護を受け入れており、ステーションとは24時間連絡が取れる。職員が受診に付き添いをする時には家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援している。又職員と看護師が緊密に相談できる関係はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院した時は、面会を重ね、病院の相談員とも連携をとり、情報の交換に努めている。家族とも連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年家族会で終末期の話し合いをした。契約時当施設の重度化した場合と終末期について説明はしているが、話し合いの会を重ねて、方針を明確にしていきたい。又医療との連携、環境整備、職員の死生感を培っていきたい。	2年前に一名の方を看取りを行なった。その際には医師、訪問看護師、職員が「利用者を何とかしたい」という思いで協力しながら数日間のお世話をした。仲良くしていた利用者が数名お別れの際に立ち会った。終末期のあり方に関する指針なども作成されており、今後、痰の吸引などについても検討していく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の火災訓練をしている。昨年12月運営推進会議において、地域と防災協定の締結に結ぶことが出来た。地域との協力体制を築いている。	念願であった地域との防災協定が締結できた。避難・誘導訓練をメインにした災害訓練を年3～4回実施し消防署の指導も受け車椅子の利用者も参加している。建物が3階建てのため1階から3階に通じる非常階段には防火扉を設置し防火区画を形成するようになっている。その他、スプリンクラーなど防火設備も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、個性が違いうように声掛けの仕方や対応も違いうように、ブライドやプライバシーが損ねることが無いように、ミーティングの折、話し合い確認している。	ホームの運営方針にも「尊厳のある豊かな老後を送れることを目指す」とあり、職員の言葉かけも穏やかで、年長者や目上の方を敬う姿勢が見られた。排泄等の失敗時にもさりげなく声がけし自室等へご案内しており、気づかい・心づかいが随所に感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、場面に依じて選択の幅を広げられるよう、声掛けや気持ちを考えておこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら、その時の希望を取り入れ、個々の流れは少し違っても、それぞれが上手く溶け合うような時間の流れを作れるよう考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみ化粧は、本人の好みで支援している。一部の利用者は職員と化粧品を買いにでかけている。月一度ボランティアさんが見えカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどは利用者様にも手伝って頂いている。献立は利用者様の希望を聞き、取り入れ食事を楽しく自分のものとしていただいている。	介助が必要な方が若干名いる。現在、水分にトロミをつける方が3名ほどいるが、食形態は常食の方が多く利用者に合わせた多様な形での対応が可能である。旬の食材を取り入れたメニューを職員が考え、利用者に説明し、職員も同席しての和気藹々とした昼食であった。食事会形式のホームの敬老会には家族も出席し、すぐ近くのホテルで毎年行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1日には赤飯を炊き、健康を祈りその月のスタートとしている。水分摂取には十分気をつけている。献立の栄養バランスと彩りを考慮して、健康面から、1人ひとりの食べ方を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。又寝る時には、入れ歯洗浄剤に漬けて義歯の清潔に努めている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し、促し誘導をして、トイレで排泄出来るよう支援している。そのことにより脱オムツに移行出来るよう取り組んでいる。	2ユニットとも、自立されている利用者は若干名で何らかの形で介助を必要としている。トイレも各ユニットに6ヶ所あり行きたい時に行くことができ、職員も時間を見計らって誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事など繊維質の多い野菜など多く摂るように努めている。又足上げ運動や散歩など軽く身体を動かす運動を毎日取り入れている。特に水分の摂取量に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。汗をかいたりした時はシャワー浴を希望により行っている。入浴拒否のある人には、安心感を持ってもらえるよう、歌と一緒に歌ったり、思い出話をしたりして気持ちを楽にしている。	入浴の時間帯は午後のお茶の前と夕食後に設定し利用者の希望に応じて順番を調整している。リフト浴等はないが、必要な場合は職員2人で介助している。温泉地ではあるが温泉使用の風呂ではなく、菖蒲湯、ゆず湯、各種入浴剤などを使い楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活リズムを整えるようにしている。加齢と共に体力の落ちている方にはご本人の意思に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はその都度ご本人に手渡し服薬を確認している。状態の変化時には、訪問看護、協力医療機関との連携が図れている。又服薬管理表を作り記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、自然と役割が出来体調を見ながら一緒に行い終えるという充実感を味わって頂いている。又その日利用者間で話し合い、散歩、体操、歌を歌ったり、楽しみを決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて季節感を感じられるよう、桜観賞、紅葉、初詣、祭りなど外出を支援している。又本人の希望に応じ、散歩や買い物、ドライブなど、ちょっとした外出支援を行っている。	天気の良い日には昼食前にホームの近辺を散歩している。お供え用の切花、化粧品、飴・菓子等を買求ために職員とともに出掛ける利用者もいる。外出時にはほぼ三分の一の方が車椅子を必要としており桜や菜の花の見物、初詣など、福祉車両に分乗し出掛けている。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で、食べた食事代は払わなくてはいけないと訴えられる人もおり、ご家族に支払いをして頂いておりますと説明する場面も時々ある。可能な方には所持していただき、買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望で携帯電話で連絡をとって日々の情報を確認されて居る利用者様もいる。利用者様の希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音や季節の香り、音、目で楽しむことなどを、リビングや日常の中に取り入れ工夫をしている。	共有空間はエアコンと床暖房で心地良く、食堂を中心に周囲を居室で固めている。南側のバルコニー側には畳みの和室があり、利用者がくつろげる居場所となっている。大きな画面のテレビの前には2台の長いソファが置かれ、利用者がくつろいでいた。時には皆で歌も楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ、ソファを置き、自由に使えるスペースを確保していて、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談により、使いなれた物、写真など、馴染みのものを持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室の入り口には緊急時の所在を知らせる「入」・「出」の文字が両面に記されたカードを表札の横に吊り下げている。室内にはベッドやクローゼットが備え付けられ、持ち込まれた筆筒やテレビの上にスナップ写真や賞状を所狭しと飾られている居室、収納ボックスを使用し必要なものを最小限にしている比較的簡素な居室など、一人ひとりに合わせた居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりみな違うので、その人の心身の状態に合わせ工夫するよう心がけている。混乱が続くような時はその原因を職員一同で話し合いなるべく取り除き、環境の整備に努めている。		